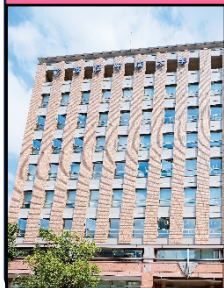


安全で有用な鍼灸施術の技法の構築に関する研究



【池袋キャンパス】 ヒューマンケア学部 鍼灸学科 准教授

恒松 美香子 Tsunematsu Mikako

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 安全性・消毒・手指衛生・運動器・身体活動



研究の概要

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

鍼灸施術は 1000 年以上前に大陸から日本に伝えられ、その後、日本独自にも発展した伝統医学です。日本の鍼灸師は、細い鍼灸針を痛み無く安全に刺入するため、その鍼灸針自体に触らざるを得ない手技を多くの鍼灸師がおこなっています。そのため、手指の衛生管理が重要となります。また、日本の鍼灸師の国家資格は視覚障害者も取得することが可能であり、視力に障害があっても安全に施術をおこなえる工夫が必要となります。そこで、視力に関わらず、安全におこなうことができる鍼灸施術について検討を進めています。これまでは、鍼灸師の衛生面について検討をおこなってきました。手洗い、消毒、また、医療用手袋着用など、適切な衛生操作をおこなった場合、鍼灸針は鍼灸師の視力に関わらず衛生的に保たれることを確認しています。近年では、鍼灸施術は治療室以外にも、災害被災地やスポーツ現場など屋外において、災害被災者やスポーツ選手のケアに用いられることがあります。そこで、屋外でも適切な衛生操作をおこなった場合、施術に用いる鍼の衛生状態は保たれることも確認しています。今後は、鍼の衛生状態のみならず、その他の鍼灸関連の安全性の向上に寄与できるような調査研究、機器の開発、教育システムの開発についての研究を進めていきたいと考えています。

一方、本邦における鍼灸施術の受療率は、2022 年では 5.7%であり、その受療率は高くありません。鍼灸施術は運動器の症状（腰痛、膝痛など）の軽減に有用であり、今後、鍼灸施術が運動器の症状の軽減に貢献できることを示すことができるような検討を進めていきたいと思っています。

これまでに、運動器の症状を訴える中高齢者を対象に、鍼灸施術をおこなった場合の身体活動の変化について検討をおこないました。その結果、鍼灸施術を活用した介入をおこなった場合、身体活動量が増加しやすいことが示唆されました。さらに、高齢者に限らず、幅広い年齢層を対象として、運動器症状の改善や QOL の向上を目的とした鍼灸施術の有用な活用方法についても検討を進めています。

今後も、伝統医学である鍼灸施術を安全に実施するとともに、運動器症状の改善や健康増進に有効に活用できるエビデンスの構築を目指した研究を継続していきたいと考えています。

実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

安全な鍼灸施術の提供が期待されます。また、運動器の症状の改善を通じて、生活上の QOL の改善、また、高齢者については介護予防にもつながりうることを期待されます。さらに、視覚障害を有する鍼灸師であっても晴眼者と同じレベルの安全な鍼灸施術行為が可能となり、視覚障害者の社会参加促進も期待できます。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- 「The Influence of Different Hand Hygiene Operations on the Hygiene of Acupuncture Needles: Including a Comparison of the Influence of Acupuncturist's Eyesight.」
- 「鍼灸施術を活用した高齢者の身体活動量増大の取り組み 腰痛を有する高齢者における一例」